

科目			
2011 年度カリキュラム	フィールド・スタディ	2017 年度カリキュラム	APS フィールド・スタディ
申請可能セメスター(2020 年度秋セメスター時点)		2~6 セメスター *詳細は募集要項をご覧ください。	
プログラム名		APU グローバルリサーチプログラム (担当: 轟 博志)	

1. プログラム名	APU グローバルリサーチプログラム(AGR)														
2. 担当教員	轟 博志教授														
3. 実習地 (申請時に希望地 を選択)	韓国:ソウル(轟 博志) イギリス:ロンドン(MEIRMANOV Serik) ベトナム:ホーチミン(田原 洋樹) <u>※本プログラムは実習地によって、参加費ならびに実習時期が異なります。詳しくは、後述「9.参加費(目安)」、「13.スケジュール」を参照してください。</u>														
4. 開講年度	2022 年度秋セメスター ※単位認定は 2022 年度秋セメスター。ただし、成績確認可能時期は 2023 年度春セメスター(4 月予定)となります。														
5. 開講言語	・日本語 <i>[実習で使用する場合があります]</i> ・英語、韓国語、ベトナム語														
6. 単位数	2 単位 -セメスターの履修登録上限単位数に含みません。														
7. プログラム概要	構成;事前授業 11 回+現地講義・実習+事後授業 1 回 ※派遣(現地講義・実習)中止の場合は後述「13.スケジュール」を確認のこと。														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実習地</th> <th>研究テーマ(例)</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>韓国、ソウル</td> <td>韓流文化研究、韓国地理、韓国社会、韓国史、韓国政治等、韓国学全般</td> <td>轟 博志</td> </tr> <tr> <td>イギリス、ロンドン</td> <td>UK studies in general, UK sustainability, UK health care, UK society, UK culture and history</td> <td>MEIRMANOV Serik</td> </tr> <tr> <td>ベトナム、ホーチミン</td> <td>ベトナム文化、言語など</td> <td>田原 洋樹</td> </tr> </tbody> </table>			実習地	研究テーマ(例)	担当教員	韓国、ソウル	韓流文化研究、韓国地理、韓国社会、韓国史、韓国政治等、韓国学全般	轟 博志	イギリス、ロンドン	UK studies in general, UK sustainability, UK health care, UK society, UK culture and history	MEIRMANOV Serik	ベトナム、ホーチミン	ベトナム文化、言語など	田原 洋樹
実習地	研究テーマ(例)	担当教員													
韓国、ソウル	韓流文化研究、韓国地理、韓国社会、韓国史、韓国政治等、韓国学全般	轟 博志													
イギリス、ロンドン	UK studies in general, UK sustainability, UK health care, UK society, UK culture and history	MEIRMANOV Serik													
ベトナム、ホーチミン	ベトナム文化、言語など	田原 洋樹													
	本プログラムは、APS の各学修分野で自らが関心を有する研究テーマについて、研究調査方法を習得するとともに、実際に派遣対象地に赴き、調査計画に基づいた調査を実施し、その結果を調査報告書にまとめるまでのプロセスを実践的に学修するものである。														

科目			
2011 年度カリキュラム	フィールド・スタディ	2017 年度カリキュラム	APS フィールド・スタディ
申請可能セメスター(2020 年度秋セメスター時点)		2~6 セメスター *詳細は募集要項をご覧ください。	
プログラム名		APU グローバルリサーチプログラム (担当: 轟 博志)	

	<p>本プログラムでは、事前授業として、研究テーマの設定、調査研究計画の策定、現地調査前の事前調査に関する手法について講義を行うとともに、受講者自らが派遣地において実施する研究調査計画策定を実践的に行う。また、派遣地においては、事前授業において策定した研究調査計画を基に現地調査を実施する。</p> <p>帰国後、研究調査報告書の作成・提出及び成果報告の発表会が行われる。</p>														
8. プログラムのねらい	<p>本プログラムの履修により、研究調査手法や研究調査計画書策定手法、および現地調査手法を実践的に修得する。また、卒業論文を含む大学での研究調査活動や、卒業後の大学院での研究や企業等での調査研究活動に活かす研究調査能力を形成することも目的とし、本プログラムでの実際の調査研究活動を通じて、特定のテーマに関する研究調査報告書を作成し、大学学部でのより深い研究への足がかりとなることを狙う。</p>														
9. 参加費(目安)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実習地</th> <th>プログラム費 (派遣の場合)</th> <th>プログラム費 (派遣中止の場合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>韓国、ソウル</td> <td>120,000 円</td> <td>18,000 円</td> </tr> <tr> <td>イギリス、ロンドン</td> <td>350,000 円</td> <td>0 円</td> </tr> <tr> <td>ベトナム、ホーチミン</td> <td>180,000 円</td> <td>2,000 円</td> </tr> </tbody> </table>	実習地	プログラム費 (派遣の場合)	プログラム費 (派遣中止の場合)	韓国、ソウル	120,000 円	18,000 円	イギリス、ロンドン	350,000 円	0 円	ベトナム、ホーチミン	180,000 円	2,000 円	<p>※すべての実習地について、宿泊ホテルは 2 名 1 室での手配を予定しています。</p> <p><b>[含まれるもの]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 渡航費</li> <li>➢ 現地宿泊費</li> <li>➢ プログラム運営費(現地施設使用料、講師料等)</li> </ul> <p><b>[含まれないもの]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 海外旅行保険、J-TAS 費用</li> <li>➢ 日本国内および現地交通費</li> <li>➢ ポケット Wifi、現地携帯電話等、通信関係費用</li> <li>➢ 食費</li> <li>➢ VISA 取得費用(必要な場合)</li> <li>➢ 予防接種費(希望者のみ)</li> </ul>	
実習地	プログラム費 (派遣の場合)	プログラム費 (派遣中止の場合)													
韓国、ソウル	120,000 円	18,000 円													
イギリス、ロンドン	350,000 円	0 円													
ベトナム、ホーチミン	180,000 円	2,000 円													

科目			
2011 年度カリキュラム	フィールド・スタディ	2017 年度カリキュラム	APS フィールド・スタディ
申請可能セメスター(2020 年度秋セメスター時点)		2~6 セメスター*詳細は募集要項をご覧ください。	
プログラム名		APU グローバルリサーチプログラム (担当: 轟 博志)	

10. 履修の目安	<p>本プログラムは日本語開講であるが、現地での調査は英語(または派遣先において必要な場合、韓国語、ベトナム語)で行うので、英語等での議論が行えることが望ましい。</p> <p>APS の各学修分野のいずれかに関心を有していること。関心を有する入門授業や基礎演習等を履修していることが望ましい。</p>
11. 到達目標	<p>以下の点を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－特定の課題について研究テーマを設定し、リサーチクエスチョンを設定することができる。</li> <li>－研究調査に必要な文献、データを取得し、分析することができる。</li> <li>－現地調査に必要な事前準備を計画し、実施することができる。</li> <li>－インタビュー等を通じた必要な情報やデータの取得することができる。</li> <li>－調査結果を報告書としてまとめることができる。</li> </ul>
12. Teaching Method	<p>[事前授業]</p> <p>リサーチ手法と調査研究報告書の作成について学ぶ。また、受講生自身が研究テーマを設定し、現地調査計画を作成するとともに、現地調査に必要な各種手配等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－研究課題の特定、リサーチクエスチョンの設定</li> <li>－調査フレームワークの策定</li> <li>－文献調査、質的・量的データ分析</li> <li>－クエスチオネア(質問票)作成</li> </ul> <p>[実習]</p> <p>受講生自らが作成した研究調査計画に沿って、現地調査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－現地実習中は、毎日必ず現地指導担当教員と1日の振り返りを行い、翌日の行動計画を確認する。帰着後に合同の成</li> </ul>

科目			
2011 年度カリキュラム	フィールド・スタディ	2017 年度カリキュラム	APS フィールド・スタディ
申請可能セメスター(2020 年度秋セメスター時点)		2~6 セメスター *詳細は募集要項をご覧ください。	
プログラム名		APU グローバルリサーチプログラム (担当: 轟 博志)	

	<p>果発表会がある。また、現地で中間発表会を行う派遣地もある。</p> <p>[多文化協働学修に関する環境と手法]</p> <p>本プログラムでは、グループによる研究調査を中心とする。また、本プログラムでは、日本とは経済、政治制度、文化や宗教的背景の異なる国を訪問し、事前授業で作成した研究調査計画に基づき、現地調査を実施するものであり、多文化協働を理論的及び実践的に考察する機会を提供するものである。</p>																												
13. スケジュール	<p>※本シラバスに記載の時限は、すべて通常講義期間の時間です。</p> <p>※すべて対面で実施します。オンラインでの受講は認められません。</p> <p>※ただし、新型コロナウイルス感染症に対応した APU の BCP に見直しが生じた場合は、授業形態を変更する可能性があります。</p> <p>[事前授業] * 毎回の授業は講義とワークショップで構成される</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th> <th>曜日</th> <th>時限</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月25日</td> <td rowspan="12">火</td> <td rowspan="12">5</td> <td>イントロダクション: 授業概要等の説明、担当教員紹介、グループ紹介、文献調査法</td> </tr> <tr> <td>11月1日</td> <td>文献リスト(発表) 学説整理の方法(講義)</td> </tr> <tr> <td>11月8日</td> <td>学説整理(発表)</td> </tr> <tr> <td>11月15日</td> <td>リサーチクエスチョン・研究仮説・研究方法(講義)</td> </tr> <tr> <td>11月29日</td> <td>リサーチクエスチョン・研究仮説・研究方法(発表)</td> </tr> <tr> <td>12月6日</td> <td>量的調査の方法(講義)</td> </tr> <tr> <td>12月13日</td> <td>量的調査の方法(発表)</td> </tr> <tr> <td>12月20日</td> <td>質的調査の方法(講義)</td> </tr> <tr> <td>1月10日</td> <td>質的調査の方法(発表)</td> </tr> <tr> <td>1月17日</td> <td>事前調査結果の発表(発表) @小教室 ※現地指導教員担当 (= 実習地別に実施)</td> </tr> <tr> <td>1月24日</td> <td>現地調査計画確定(発表) @小教室 ※現地指導教員担当 (= 実習地別に実施)</td> </tr> </tbody> </table>	日	曜日	時限	内容	10月25日	火	5	イントロダクション: 授業概要等の説明、担当教員紹介、グループ紹介、文献調査法	11月1日	文献リスト(発表) 学説整理の方法(講義)	11月8日	学説整理(発表)	11月15日	リサーチクエスチョン・研究仮説・研究方法(講義)	11月29日	リサーチクエスチョン・研究仮説・研究方法(発表)	12月6日	量的調査の方法(講義)	12月13日	量的調査の方法(発表)	12月20日	質的調査の方法(講義)	1月10日	質的調査の方法(発表)	1月17日	事前調査結果の発表(発表) @小教室 ※現地指導教員担当 (= 実習地別に実施)	1月24日	現地調査計画確定(発表) @小教室 ※現地指導教員担当 (= 実習地別に実施)
日	曜日	時限	内容																										
10月25日	火	5	イントロダクション: 授業概要等の説明、担当教員紹介、グループ紹介、文献調査法																										
11月1日			文献リスト(発表) 学説整理の方法(講義)																										
11月8日			学説整理(発表)																										
11月15日			リサーチクエスチョン・研究仮説・研究方法(講義)																										
11月29日			リサーチクエスチョン・研究仮説・研究方法(発表)																										
12月6日			量的調査の方法(講義)																										
12月13日			量的調査の方法(発表)																										
12月20日			質的調査の方法(講義)																										
1月10日			質的調査の方法(発表)																										
1月17日			事前調査結果の発表(発表) @小教室 ※現地指導教員担当 (= 実習地別に実施)																										
1月24日			現地調査計画確定(発表) @小教室 ※現地指導教員担当 (= 実習地別に実施)																										

科目			
2011 年度カリキュラム	フィールド・スタディ	2017 年度カリキュラム	APS フィールド・スタディ
申請可能セメスター(2020 年度秋セメスター時点)		2~6 セメスター *詳細は募集要項をご覧ください。	
プログラム名		APU グローバルリサーチプログラム (担当: 轟 博志)	

### [現地実習]

実習地	担当教員	期間 (派遣)
韓国、ソウル	轟 博志	2023/3/12(日)~3/18(土) ※現地実習期間:3/13-3/17
イギリス、ロンドン	MEIRMANOV Serik	2023/2/15(水)~2/22(水) ※現地実習期間:2/16-2/20
ベトナム、ホーチミン	田原 洋樹	2023/2/26(日)~3/4(土) ※現地実習期間:2/27-3/3

※派遣中止の場合は 2 コマ分の授業(原則オンライン)を実施する。

### 現地実習の基本的な流れ

- Day1 空港集合(プログラム開始)※派遣国によって異なる。  
 Day2 現地大学授業、現地調査、振り返り①  
 Day3 現地調査、振り返り②  
 Day4 現地調査、振り返り③  
 Day5 現地調査、振り返り④  
 Day6 現地調査、振り返り⑤  
 Day7 空港解散(プログラム終了)※派遣国によって異なる。

### [事後授業]

日	曜日	時限	内容
3月27日	月	5	合同成果発表会

### [事後レポート]

以下のスケジュールで manaba より提出すること。

- ・プレレポート提出 締切:3/26(日)17:00
- ・最終レポート提出 締切:3/28(火)17:00

※3月27日の合同発表会での指摘事項を踏まえ、修正のうえ、最終レポートとして提出。プレレポートからの変更箇所が分かるように作成・提出すること

科目			
2011 年度カリキュラム	フィールド・スタディ	2017 年度カリキュラム	APS フィールド・スタディ
申請可能セメスター(2020 年度秋セメスター時点)		2~6 セメスター *詳細は募集要項をご覧ください。	
プログラム名		APU グローバルリサーチプログラム (担当: 轟 博志)	

14. 成績評価方法	<p><b>A+、A、B、C、F の 5 段階評価</b></p> <p>授業・実習への参加態度・貢献 20%</p> <p>調査計画書 30%</p> <p>最終レポート 50%</p>
15. 学生への要望事項	<p>新型コロナウイルス感染症の状況、政治情勢の急変や天候等により現地実習の内容が変更となることがあります。</p> <p>食生活等の生活習慣や宗教的習慣が異なりますので、訪問国の文化や習慣へのリスペクトを忘れないように。</p> <p>その他の注意事項に関しては授業の中でも説明しますが、申請前に疑問等があれば担当教員に相談してください。</p> <p>-海外プログラムに参加するためには、出発から帰国までの期間について、大学が指定する海外旅行保険およびJCSOS危機管理システムへの加入が必要です。詳細については、受講を許可された学生に対して別途、案内します。</p> <p>現地への派遣可否については、11月下旬を目途に参加者に通知します。</p>
16. Textbook /教科書	なし
17. Further readings 参考文献	なし
18. Others / 上記以外	事前授業時に受講者に講義資料等を配布する。
19. Notes/その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 募集人数:45 名(各派遣地 15 名以内)</li> <li>● 最少実施人数:各派遣地 5 名</li> <li>● 派遣先国・地域について、外務省「危険情報レベル」1 以下の場合、派遣可とする</li> </ul> <p>&lt;<a href="https://www.anzen.mofa.go.jp/">https://www.anzen.mofa.go.jp/</a>&gt;</p>